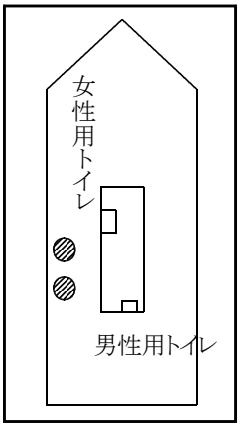
2018年9月22日(土)　　マイカ　　美浜釣舟センター　宝生丸　　美浜町早瀬
中潮:旧8月13日　　満潮 11:58(28㎝)　干潮 19:24(4㎝)
満潮 翌日02:17(23㎝)　敦賀港
自分　マイカ：１９杯　スルメ：２杯　　ツレ：マイカ７杯

13時10分　出発
15時40分　現地着　(2時間30分)
高速　コンビニ　トイレ2回
16時30分　釣り座のくじ
17時30分　釣り開始 掛かり釣り
19時24分　干潮(4㎝:敦賀港)
0時00分　納竿



【マイカ仕掛け】
基本
○浮きスッテ2.5号　上から、赤緑、赤白、エギ、赤緑、赤白
○一番下は、目立ちやすい色にした方が確認しやすいから、赤白とする。
幹糸4号枝間1.2m　上下も1.2m　全長7.2m　幹糸再利用
ハリス3号3㎝　　一部再利用
○2018.8.29でメンテナンスしたものを利用した。
○おもり　60号　水中ライトなし
○電動リール　　真史:シーボーグ300J　　ツレ:電動丸3000XH
○竿　シマノ　YOIKA BB 6:4　2.1m　錘負荷30-100号
今日から使い始め　フィッシング遊にて購入　¥1,5000くらい
竿先が柔らかくてよいが、すぐに折れそうな気がする。
トレジャーハンター　5:5　3.3m　錘負荷30-80号

【料金】
○船代　¥12,000　(氷付き)

【様子】
○三連休だったことから、早めに予約を入れておいた。
○前回、キーストーン製の「ケンサキSP」は、姿勢が水平になるから、よいとのことだったことから、船宿で購入しようと思ったが、人気の赤緑、赤青は売り切れだった。
○4番くじで、前回と同じ場所(12番13番)に入った。艫よりの方(13番)は排気ガスでくさいことから、ここを避けた方が良い。したがって、トイレに近いことも含め、11番12番が良い。
○風が強く波が高い。やがて収まっていった。予報通りだった。終盤、風は強くないが波が高くなった。
○「おもりは60号。60mくらいを誘って。電気がともれば55mくらいが棚になると思います。」とアナウンスがあった。
○しかし、「日没前は底であるから、底で誘い待つ」とした。すぐにツレが一尾ゲット。船中一番。
○ところが、ツレが酔ってしまった。酔い止めを乗船1時間前に飲むのを忘れていた。乗船して

から飲んだ。遅かった。波が収まっても回復しなかった。終日、釣りにならなかった。それでも7杯釣った。

【釣り方】

○隣の席が空いていた。船長が釣り始めた。船長の釣り方は次の通り。

○棚でずっと待っている。小さなあたりを見逃さす、竿をあおって掛けにいっている。調子よく釣っている。棚を尋ねると、50mまたは52mとのこと。少しは変えていることが分かった。

○あたりがないと、時々、竿を大きくあおり、仕掛けをフリーフォールさせて待っていた。

○やがて釣れなくなると、低速自動巻き上げで釣っていた。

○スッテはケンサキSPかどうかはわからない。スッテは6本だったか。色はバラバラだった。赤青のスッテはない。赤緑に掛かるのは見た。3m位の竿だった。

○船長の釣り方をまねた。

○棚で待つ釣り方では、船長ほど長く待てなかった。45mから60mまでを、フォールで狙ったり、巻き上げをやったりした。結果として、船長ほど釣れなかった。

○イカがいるときは、棚に仕掛けを落としてしばらく待つと掛かってくるという感じ。

○竿を大きくあおり、仕掛けをフリーフォールさせて待つこともやった。一日釣って、これで当たりが出たということはなかった。

○ツレがダウンしたので、二刀流にした。どちらか一本は50m付近で固定、もう一本は低速自動巻き上げになるようにした。

○低速自動巻き上げは、60mから45mまで、とか、底から45mまでを探った。速さは、最低速、それより速く、更にそれより速くを試した。最低速でなくても掛かった。

○低速ではあるが、よく掛かる最高の速さがよい。広く棚が探れるからである。

○シーボーグ300Jで自動シャクリ「2m、2回、10秒待ち」を遅め、速めで試みた。一回も当たりなしだった。

○低速自動巻き上げで掛かったとき、50m付近であることが2回ほどあった。

○別の竿を触っているときに掛かると、船長がスピード7（シーボーグ300J）くらいにして巻き上げてくれた。そのため、当たり棚は不明。「掛かっているよ」と言われ、「このまま待てばよいか」と尋ねると、「それでよい」と返事があったが、待ちきれずに巻き上げた。

○マイカが小さいため、あたりが小さい。

○せっかく掛かっても身切れして足だけ残ってくるということが結構あった。船長と言えでも同様であった。ツレは一度も身切れはなかったと言う。YOIKA BB 6:4の竿である。

○当たりがないことから、底も探った。底で1杯、深場で1杯。いずれもよく引いた。身切れしないように慎重にやりとりした。2杯ともスルメだった。よく引くはずだ。

○終了直前、シーボーグ300Jが高切れとなった。水深77mで水面近く切られた。何が切ったか分からない。船中で同様の人が2名いた。この竿は納竿とした。したがって、カウンターの再設定が必要である。

【メンテナンス】

○突然、おもりがなくなったり、幹糸の途中からなくなったということが何度もあった。高切れを除けば、おもりを6個（60号なくした。原因はメンテナンスの仕方が良くなかったと考えられる。

○これまで、使用した後には、幹糸にざらつきがないかチェックしてきた。幹糸が切れないように電車結びでメンテナンスしてきた。そこには透明パイプを通しておいた。
○3mの竿を大きく振り上げた後、フリーフォールで仕掛けを落とすということを繰り返し行ったことで、電車結びが抜けたか、電車結びのところで切れたと考えられる。
○4号ハリスの電車結び、捨て糸は、4号と3号の電車結びであった。

【次回に向けて】
○メンテナンスは親子サルカンを使用のこと。捨て糸ではサルカンを使用のこと。
○シーボーグ300J　高切れによるカウンターの再設定
○錘の購入　　60号4個　　80号4個　（70号2個）
○身切れに関わって
・YOIKA BB 6:4の置き竿による回収で、身切れは出ないのか、実釣で確認する。
・3.3m竿の方が、仕掛けが扱いやすい。しかし、身切れが発生する。穂先を柔らかく作るか。
・YOIKA BB 7:3を使い、回収は手持ちにするか。または、これに柔らかい穂先を作るか。